

AIを活用した「診断ラグ」解消に向けた取り組み 心アミロイドーシスの早期診断を目指す 産学連携のコンソーシアムを支援

アレクシオンファーマ合同会社（以下、アレクシオン）は、「難病の日」である2024年5月23日に、大阪・関西万博の英国パビリオンで記者会見を開催しました。本会見には、第一線で活躍される専門家の皆さまがご登壇。産学が連携する、AIを活用した早期診断のためのコンソーシアムについての発表と、国の指定難病のひとつである「トランスサイレチン型心アミロイドーシス」（以下、心アミロイドーシス）の診断における臨床現場の現状と課題、解消に向けた診断支援ツールとしてのAIの活用に関する知見が発表されました。

アレクシオンが目指す診断ラグの解消とヘルスエクイティ

会見冒頭、アレクシオン 社長の濱村美砂子（はまむら・みさこ）が、「診断ラグ」の改善・解消の必要性と、本コンソーシアムへの想いをお話しました。

アレクシオンは、「ヘルスエクイティ（医療の公平性）」の向上を目指して活動しており、特に、確定診断までに時間を要する「診断ラグ」に注目しています。心アミロイドーシスは診断率が低く、多くの患者さんが正しい診断にたどりつけない現状があります。早期診断の実現には、医療従事者、研究者、行政、企業など、多様なステークホルダーが連携し、診断精度の向上とアクセス改善に取り組むことが不可欠です。

今回のコンソーシアム支援は、アレクシオンが推

進する「患者中心主義」の理念と合致するものであり、アレクシオンは患者さんに一日でも早く適切な診断と治療が届く未来の実現に向けて取り組むという決意を表明しました。



心不全に潜む心アミロイドーシスと診断課題

続いて、高知大学医学部 老年病・循環器内科学教授の北岡裕章（きたおか・ひろあき）先生から

は、心アミロイドーシスを取り巻く環境と治療の現状、そして診断における課題について発表があ

りました。

アミロイドーシスは、体内のタンパク質が変性し、アミロイドと呼ばれる集合体となって様々な臓器に蓄積することで発症するもので、心アミロイドーシスは、アミロイドが心臓に蓄積し機能を低下させる疾患です。

国内の心アミロイドーシスの患者数は、5～6万人にのぼる可能性もあると推定されていますが、高血圧性心疾患や肥大型心筋症など別の疾患とみなされることも多いのが現状です。心アミロイドーシスが疑われず、正確な診断が遅れるケースが多いことが課題だと、北岡先生は指摘しました。

また、北岡先生は、診断の遅れが治療の遅れに直

結し、患者さんの予後悪化につながることも言及。その上で、今後、病気の認知度や理解度向上、そして早期かつ正確な診断と治療提供の重要性について、警鐘を鳴らしました。

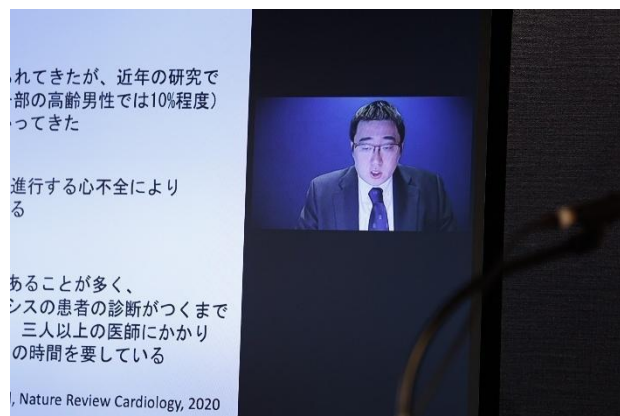


心アミロイドーシスにおけるAI診断支援の可能性

株式会社コルバトヘルス サイエнтиフィックアドバイザー 兼 東海大学医学部 講師、ハーバード大学 講師の後藤信一（ごとう・しんいち）先生からは、心アミロイドーシスの診断におけるAIの可能性について発表がありました。

心アミロイドーシスは、根本的な治療への介入が可能な疾患です。もしAIが心アミロイドーシスを疑い、高精度な検査へと橋渡しをすることができれば、早期診断・治療への介入が実現できます。後藤先生は心エコーデータを用いたAI開発に取り組まれており、これまでの研究によれば、AIの診断支援による精度が高いことが明らかになっています。後藤先生によれば、今後、高品質かつ多く

の患者さんの心エコーデータの収集と、日本人を含む複数の施設での検証により、さらにAIの精度を高められる可能性があるとのことでした。



診断ラグ解消に向けた産学連携コンソーシアムの展望

熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科学 教授の辻田賢一（つじた・けんいち）先生からは、心アミロイドーシスの診断ラグ解消に向けた産学連携コンソーシアムの展望について発表がありました。

辻田先生は、「心アミロイドーシスを対象に、AI技術を有するベンチャー企業や医療機器メーカー、そして治療薬が登場した今こそ、産学連携のコンソーシアムを構築する好機である」と強調。

また、コンソーシアムの目標として、心エコーAI診断技術を日本全国に普及させ、日常診療の中で心アミロイドーシスが疑われる患者さんを早期に特定し、専門的な治療が可能な施設に紹介できるスキームを構築することを掲げられました。



心アミロイドーシス治療におけるアストラゼネカグループの取り組み

会心の最後には、アレクシオン・アストラゼネカ・レアディーズ 最高経営責任者 兼 アストラゼネカ チーフ・ストラテジー・オフィサーのマーク・デュノワイエが、心アミロイドーシス治療におけるイノベーションについて発表いたしました。心アミロイドーシスでは革新的な治療薬が開発されており、患者さんの治療にパラダイムシフトをもたらす可能性があります。また、アレクシオンの委託調査によると、治療薬の存在は診断率の向上に寄与することが示されています。しかし、治療薬を患者さんに届けるためには、医療関係者だけではなく、さまざまな業界による継続的な連携が不可欠です。マーク・デュノワイエは、

アレクシオンのもつイノベーションの力によって、患者さんの早期診断・治療への介入を実現し、ヘルスエクイティ（医療の公平性）にも貢献するという決意を改めて表明しました。



アレクシオンは、薬剤の開発のみならず、こうしたコンソーシアムの支援などを通じて、希少疾患の患者さんが直面している課題に向き合い、患者さんとそのご家族のより良い未来を目指して、引き続き力を尽くしてまいります。



AI 活用による「診断ラグ」解消を目指した 産学協働でのコンソーシアム発足へ

ALEXION
AstraZeneca Rare Disease

会見概要

日時：2025年5月23日（金）15:30～16:35

場所：2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博） 英国パビリオン

主催：アレクシオンファーマ合同会社

プログラム：オープニング

講演

- ・アレクシオンが目指す診断ラグの解消とヘルスエクイティ
- ・心不全に潜む心アミロイドーシスと診断課題
- ・心アミロイドーシスにおけるAI診断支援の可能性
- ・診断ラグ解消に向けた産学連携コンソーシアムの展望
- ・心アミロイドーシス治療におけるアストラゼネカグループの取り組み

クロージング